児童会・生徒会による
いじめ防止の取組事例集

秋田市立日新小学校

美郷町立千畑小学校

大館市立田代中学校

仙北市立生保内中学校

県立西目高等学校

県立比内支援学校たかのす校

令和３年１月　秋田県教育委員会

「いじめは人間として絶対に許されないもの」との意識を、学校教育全体を通じて、児童生徒一人一人に徹底し、いじめを許さない学校づくり・学級づくりを進めるためには、児童会・生徒会活動などにおける共感的な人間関係づくりや自発性・自治力の育成が大切です。

秋田県教育委員会では、いじめ問題に対応する際の参考資料として、県内の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校で、児童会・生徒会がいじめ問題に正面から向き合い、その根絶や未然防止に向けて全力で取り組んでいる様々な実践例を収集し、取組事例集を作成いたしました。

県内全ての学校で、児童生徒が主体的にいじめ問題に向き合う取組が一層充実するよう、本事例集を活用していただければ幸いです。

目　　次

【小学校】

・北秋田市立綴子小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
・八峰町立八森小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
・秋田市立日新小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
・男鹿市立脇本第一小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
・大仙市立四ツ屋小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
・美郷町立千畑小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

【中学校】

・鹿角市立尾去沢中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
・大館市立田代中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
・大潟村立大潟中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
・にかほ市立象潟中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
・仙北市立生保内中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
・横手市立増田中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２

【高等学校】

・県立男鹿海洋高等学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
・県立西目高等学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４

【特別支援学校】

・県立比内支援学校たかのす校　・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

【小学校】

（小学校低学年用）

秋田わか杉っ子　いじめゼロに向けた五か条

一　私たちは、絶対にいじめをしません。

二　私たちは、いじめを見すごさず、みんなで力を合わせていじめをなくします。

三　私たちは、思いやりの心で、相手の気持ちを感じたり考えたりします。

四　私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手も大切にします。

五　私たちは、いろいろな人たちとなかよくし、みんなを支える一人になります。

（小学校中・高学年用）

秋田わか杉っ子　いじめゼロに向けた五か条

一　私たちは、いじめが人権をそこなう、許されない行いであることを理解し、絶対にいじめをしません。

二　私たちは、いじめを見すごさず、友達や信頼できる人と力を合わせて、いじめがなくなるように行動します。

三　私たちは、思いやりの心を大切にし、友達の喜びや心の痛みを、その人の気持ちになって感じたり考えたりします。

四　私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手もかけがえのない存在として大切にします。

五　私たちは、生活の仕方や文化、ものの考え方などにちがいがある人々とも進んで交流し、みんなを支える一人になります。

学　校　名	北秋田市立綴子小学校	児童生徒数	１０１人	学級数	８

１　活動名　いじめゼロ川柳

２　活動の趣旨

本校の児童会では，全校のみんなが明るく楽しい学校生活を送るために，本市の「きたあきた子どもサミット(名称は現在のもの）」事業とタイアップし，「ふんわり言葉」を使おう，友達のよいところを「ありがとうの木」で伝えよう，という活動を数年前から継続している。さらに，「きたあきたいじめゼロ宣言」を受けて本校でもいじめゼロを目指そうという機運が高まり，児童会活動としていじめ防止を呼び掛けるとともに，平成３０年度から新たに「いじめゼロ川柳」に取り組むこととし，今年で３年目を迎えた。

３　活動の概要

(1) １０月下旬：運営委員会で企画会議
(2) １１月上旬：全校朝会で運営委員がいじめゼロを目指し「いじめゼロ川柳」を提案
(3) １１月中旬：川柳募集
全校児童による「いじめゼロ川柳」づくり
学年の実態に応じ，学級活動，休み時間，家庭学習などを利用して一人１句作成
(4) １１月下旬：運営委員会で各学年の最優秀川柳を選考
(5) １２月初旬：全校朝会で学年最優秀川柳６句を披露
その後６句を全校児童で音読
(6)～３月下旬：児童玄関ホールへ６句を掲示

【運営委員と作者による最優秀川柳披露】

４　これまでの成果と考えられること

数年前から取り組んできた「ふんわり言葉」や「ありがとうの木」の活動を，今年度も１学期に運営委員会を中心として行い，各教室や廊下などには子どもたちの相手を思いやる優しい気持ちが言葉のカードとなって掲示されている。そのような校内の雰囲気を土台として，運営委員会が全校児童へ，一人一人が「いじめをしない・させない・いじめゼロ」という意識をもつために今年も「いじめゼロ川柳」をつくろうと呼び掛け，１０１名全員が川柳をつくることができた。

一生懸命川柳を考えたことにより，いじめのある学校生活はどんなものになってしまうのか，いじめを受けた人はどのような気持ちになるのか，いじめをなくすにはどうしたらよいのかなど一人一人がいじめを自分事として真剣に考えることができた。考えたことを自分の言葉で川柳にしたことで自らの行動を振り返る機会にもなった。その結果，つくった川柳のような行動を取ろうとする姿や，校内に掲示している「ふんわり言葉」をもっともっと意識して使おうとする姿が見られるようになった。特に高学年において，友達のつくった川柳を読むことにより，これまでよりも相手の気持ちを想像したり尊重したりしようとする行動が多くなってきたと感じている。

５　今後の課題

「いじめゼロ川柳」をつくった時の「いじめをゼロに」という気持ちや意欲を，その時期だけでなく年間を通してもち続けられるようにしたい。同様に，学校生活のみならずインターネットやＳＮＳ利用時についても広げたい。今後も毎年この取組を継続する予定であるが，児童がより主体性を発揮して深まりのある取組ができるようにしていきたい。

学　校　名	八峰町立八森小学校	児童生徒数	１００人	学級数	７

１　活動名　全校で取り組む「八森っ子 いじめゼロ」

２　活動の趣旨

本校の児童会では，毎年４月の全校集会で運営委員会が寸劇を披露し，いじめについて全校の意識を高め，「いじめゼロ」を目指すことを確かめている。また，各学級では，「秋田わか杉っ子いじめゼロに向けた五か条」を掲示して，学級で，いじめや差別について考え，学び合う機会を設けている。さらに，掃除や児童会行事等では縦割り班での活動を取り入れることで，異学年との交流も積極的に行われている。

こうした活動を通して，本校児童は，主体的に「八森っ子いじめゼロ」を達成しようとしている。

３　活動の概要

⑴ 児童会による「いじめ防止集会」

本校の児童会では，毎年４月の全校集会（今年度は新型コロナウイルスの影響で６月に実施）に合わせ「いじめ防止集会」を行っている。いじめの具体的な場面を運営委員が寸劇で発表し，全校児童に「いじめはよくない」ということを実感できるようにしている。その後，全校児童で「秋田わか杉っ子いじめゼロに向けた五か条」を大きな声で復唱し，いじめに対する意識を高めている。

【いじめゼロ５か条を確かめ合う子どもたち】

⑵ 児童会総会での「全校話合い」

前・後期の年２回行われる児童会総会では，自分たちが目指す学校の姿やテーマなどについて縦割り班で話し合った上で全校で協議を行っている。今年度も，低学年から高学年までが活発に意見を出し合い，司会の児童が上手に意見をとりまとめた。全校の児童がもっと仲よくなるために，特に挨拶をがんばることや，そのための手立てなどが確認されていた。

⑶ 児童会による「八小サミット」

毎月１回，各委員会のリーダーや学級の代表が集まり，校内の問題について話し合っている。校内での問題点や全校で取り組むべき課題などについて，自分たちでできる解決方法を出し合うとともに，全校に呼び掛けたり，学級に持ち帰って話し合ったりすることで，自主的に課題に向き合うことができている。

４　これまでの成果と考えられること

高学年，特に最上級生の６年生を中心に，児童が自分たちの学校生活をよりよいものにしていこうという意識が高まった。特に，今年度は新型コロナウイルス感染防止対策もあり，学校生活も通常とは異なるものとなったが，休み時間の遊び方を工夫したり，縦割り班での活動で温かい声掛けが見られたりするなど，異学年との交流も活発になった。

５　今後の課題

少子化の影響で，児童の大幅な減少が続いている。学級の活動はもちろん，地区児童会や登校班など異学年が協力し合う場も縮小してきている。意図的に多様な交流の場を設定することに加え，互いに思いやりの心をカードに書いて掲示する「あったか言葉の木」コーナーの充実など，児童の心の交流が一層進むような取組を今後も模索していく必要がある。

学　校　名	秋田市立日新小学校	児童生徒数	８３４人	学級数	３２

１　活動名

異学年交流活動「わくわくフェスタ」を通した絆づくり
～未来かがやくワンチーム　あったかハートで日新チャチャチャ～

２　活動の趣旨

今年度の学校スローガンは，「未来かがやくワンチーム あったかハートで日新チャチャチャ」。「チャチャチャ」とは，「Chance」・「Challenge」・「Change」の略であり，「いろいろな困難があっても，笑顔で，みんなの心を一つにして頑張ろう」という子どもの思いが込められている。

このスローガンのもと，一人一人の子どもが好ましい人間関係を築き，生き生きとした学校生活を送るための手立てとして，本校では異学年交流活動を継続している。「わくわくフェスタ」は，その取組の一つである。

３　活動の概要

(1)　「わくわくフェスタ」当日まで

・１・６年，２・４年，３・５年のペア学年の中で１年間交流するペアを決め，５月初め頃に名刺交換をした。下学年にとってはお世話してくれるお兄さん・お姉さんとの対面であり，４年生はいよいよお世話する側に回る第一歩である。
・交流を深めるためになかよし集会を行った。一回目はペアの上学年が下学年を楽しませようという意図のもと計画し，取り組んだ。今年度はコロナ禍のもと活動に色々な制約を受けることになったが，子どもたちが知恵を出し合い内容を工夫しながら行う姿が印象的であった。二回目は，わくわくフェスタに向けてグループの顔合わせをし，リーダーが中心となり，めあてや約束を話し合ったり，大森山動物園の地図を見ながらコースを確認したりした。

(2)　「わくわくフェスタ」当日

・ペア学年が並んで大森山動物園まで歩いた。本校は動物園に近いとはいえ，歩くとなると子どもの足で３０分ほどはかかる。１年生が歩くにはやはり少し大変であるが，６年生が話しかけながら一緒に歩くことで，全員が無事，到着することができた。
・動物園の中ではグループごとにオリエンテーリングを楽しんだ。事前に渡された地図を手に，園内を散策しながら，そこに設置されてある問題を探し，協力して解いた。問題は毎年，動物園の方々が作成してくださるため，動物の種類も様々で，内容も動物に関する細かな情報を知ることができて楽しい。また，問題を解きながら，上学年の子どもが下学年の子どもに「次は何を見たい？」と聞く微笑ましい姿も見られた。

【オリエンテーリングの様子】

・動物園から戻り，教室でペアごとにお弁当を食べ交流を深めた。昨年度までは動物園で食べていたが，今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考え学校での昼食タイムとした。

(3)　「わくわくフェスタ」活動後

・動物園側に，子どもの振り返りをお礼の文書とともに送り，感謝の気持ちを届けた。
・ペア学年の交流は３月まで続き，下学年が計画するなかよし集会も予定している。

４　これまでの成果と考えられること

本校は全校生徒８３４名，全学年５クラスと，大変規模が大きい。そんな中で，子どもたち一人一人が互いの存在を認識し，よさを認め合い，共に高め合いながら絆を深めるために，異学年交流活動はとても意義があると考える。上学年にとって下学年の世話をすることは，責任への自覚を促すとともに，自分の存在意義を感じる大切な活動であり，下学年にとっては感謝の気持ちをもったり，上学年へのあこがれを抱くことにもつながる。実際に「わくわくフェスタ」は子どもたちにとってとても楽しみな行事になっており，本校の特色を語る上でも重要な行事になっている。それは子どもたちの楽しげな表情や，子ども同士が助け合い，いたわり合う姿を見れば一目瞭然である。活動後の振り返りでも，「下学年の子がかわいかった。お世話は大変だったけれど楽しかった。」「優しくお世話してくれてうれしかった。お世話してくれた上学年がかっこよかった。」などの感想がたくさん見られた。さらにもう一つ大きな成果は，動物園と連携することにより，自然や動物に親しんだり，地域への愛着や社会性を身に付けることができるという点である。動物愛護や思いやりの気持ちを培うことは，子どもの人間性を育む上でとても大切であると考える。

５　今後の課題

今後も子どもたちが達成感や充実感が得られるような異学年交流活動を継続していきたい。

特に，「わくわくフェスタ」は大森山動物園との連携があって成り立つ活動である。今年度はコロナ禍の中，様々な制限があったが，これからもどんな形であろうと，子どもたちが楽しみにしている以上，更に連携を深め活動していきたい。

学　校　名	男鹿市立脇本第一小学校	児童生徒数	１３０人	学級数	９

１　活動名　笑顔あふれるわきいちっこを目指して

２　活動の趣旨

今年度の児童会は，互いに助け合いながら，自主的・実践的な活動を通して，よりよい生活や人間関係を築こうとする子どもの育成を図るという特別活動のねらいのもとに活動を進めている。

子どもたちは，「学校のみんなが笑顔で学校生活を送るために何が大切なのか」を考えながら活動に取り組んでいる。

３　活動の概要

(1)　なかよし班活動（縦割り班活動）

協力する態度や思いやり，感謝の気持ちなど，望ましい人間関係を築くために，１８の縦割り班を組織し，異学年での交流活動を行った。

①　縦割り班顔合わせ集会（５月）

新しい縦割り班への所属意識をもち，活動への意欲を高めるための集会を行った。班ごとに簡単な自己紹介を行い，新１年生が異学年との交流に不安なく参加できるようにした。

②　一人一鉢活動（６月）

全校の子どもたちが一人一鉢ずつ花を植えて育てる活動を行った。植栽は縦割り班ごとに行い，高学年の子どもが低学年の子どもに植え方を教えたり，手伝ったりする姿が見られた。

【一人一鉢活動の様子】

③　なかよし清掃（月１回）

協力し合うことの大切さを知り，奉仕の心を育むために，校内の清掃区域を縦割り班ごとに割り当てて行った。

④　全校ウォークラリー（１０月）

学区内にポイントを設け，地域に関する問題を解きながら目的地を目指す活動である。

コースの途中に脇本海岸の清掃活動も取り入れ，ウォークラリー終了後は，班ごとに６年生が考えた遊びを行った。

(2)　各委員会の取組

全校の子どもたちが楽しく充実した学校生活を送ることができるようするために，各委員会が創意工夫しながら活動を進めた。

・運営委員会…登校時のあいさつ運動，満点スクール標語コンクール
・ボランティア委員会…募金活動，花の世話の呼びかけ

４　これまでの成果と考えられること

今年度はコロナウイルス感染予防のため，なかよし班活動も内容や時間を制限された中での実施となった。しかし，限られた中でも，子どもたちは班のメンバーとの交流を深め，仲間と協力し合って活動する楽しさ等を体験することができた。休み時間には学年関係なく一緒に遊び，高学年の子どもたちが年下の子どもたちへの接し方で配慮をしたり，低学年がお兄さんお姉さん達への感謝の気持ちを表したりするなど，心が通い合う場面も多く見られた。

５　今後の課題

委員会主催の標語コンクールや，各学級で相手を思いやる言葉遣いについての呼びかけを行っている。しかし，子ども自身が自分事として十分とらえきれていない部分もあり，友だちとのトラブルの原因となる言動をとる子どももいた。望ましい人間関係づくりのための様々な活動をいじめの未然防止につないでいくことができるように支援していきたい。

学　校　名	大仙市立四ツ屋小学校	児童生徒数	１５６人	学級数	８

１　活動名

「優しい笑顔の四ツ屋小」を目指して
～児童会活動や地域と連携した活動を通して～

２　活動の趣旨

本校では，児童会テーマ「進んでしよう明るいあいさつ　優しい笑顔の四ツ屋小」のもと，自主的・実践的な活動を促し，よりよい学校づくりに向けて取り組んでいる。

児童の主体的な活動を通して好ましい人間関係を築いたり，自己有用感を高めたりすることで，いじめのない笑顔の学校を目指している。

３　活動の概要

(1) 児童の思いを生かした活動

①ハロウィンパーティー集会

全校が仲良くなるようにと６年生が企画して行った。６年生が運営するボーリングブースや魚釣りブースなどを全校児童がめぐり，スタンプをもらう活動であった。ハロウィンということで６年生が仮装して運営をし，みんなで楽しいひと時を過ごした。

②サプライズ出迎え

６年生の修学旅行が終わり，学校に帰校した際，遅い時刻であったため児童は出迎えられなかったが，５年生がお帰り横断幕を作り，旅行の無事を祝った。それを受け，５年生の保呂羽山宿泊学習が終わり，帰校する際には，今度は６年生がサプライズ出迎えをし，２日間がんばった５年生をねぎらった。５年生と６年生がお互いのがんばりを認め，思いやるあたたかいサプライズイベントであった。

【５年生を出迎える６年生】

(2) 地域と連携したあいさつ運動

地域と児童会が連携したあいさつ運動を，月２回のペースで行っている。公民館の方や学校評議員などの地域の方，保護者，児童会運営委員，５・６年児童が集まり，みんなであいさつを交わしている。学区の中学生が参加することもあり，地域一丸となってあいさつ運動に取り組んでいる。

【玄関前で登校児童にあいさつ】

４　これまでの成果と考えられること

・児童の思いをくみ取った活動を実現させることで，意欲の高まりや主体的な活動が見られた。また，高学年には責任感が生まれ，リーダーとしての自覚が醸成されるとともに，低学年の児童の高学年に対する親しみやあこがれが高まってきている。
・友達同士のトラブルはあるものの，深刻化することなく解消できている。このことは，これまでの取組によって他を思いやる気持ちが高まったためであると考えられる。また，児童の笑顔が増えてきたことも成果の一つであると考える。

５　今後の課題

・児童の思いをくみ取るための教師の支援の在り方を考えていきたい。
・あいさつ運動以外の場で，「進んでするあいさつ」に結び付けるための手立てを講じ，更に児童の笑顔が増えるように努めていきたい。

学　校　名	美郷町立千畑小学校	児童生徒数	２４４人	学級数	１４

１　活動名　　様々な形態の異学年交流を通して，互いの心をつなぐ子供の育成をめざして

２　活動の趣旨

縦割り班活動や集会活動，学習や学校生活全般で，他学年との交流を重視した活動を実施する。活動を通して，相手を思いやり，互いのよさを認め合い，人と「つなぐ」「つながる」力を育む。

３　活動の概要

(1) 縦割り班活動（全校）

全校児童で30の縦割り班（わくわく班）を編制し，次のような活動に取り組んでいる。

・１年生を迎える会，縦割りはじめましての会（４月）
・縦割り清掃（毎日）
・わくわく遊び（年５～６回）
・サツマイモ植え（６月）・収穫（９月）
・人権の花植栽（６月）
・なべっこ会（10月）
・スノーフェスティバル（２月）
・６年生ありがとうの会（３月）

【みんなで作ったなべは格別です】

(2) 登校班（全校）

本校は学区が広く，半数以上の児童がスクールバスを利用している。徒歩通学の児童と同様，バス通学の児童も地区ごとに登校班を組み，バス乗車時から学校到着まで，高学年が面倒を見ながら通学する。

(3) ペア学年や学団の交流

・１年生と６年生…花の苗植え（６月）や水泳学習（７月）
・学団ごとの学習参観や交流（随時）

４　これまでの成果と考えられること

異学年の活動により，高学年はリーダーとしての言動を考える機会となり，活動を通して責任感や自己有用感を高めることができた。また下級生は上級生の存在によって安心して学校生活を送ることができるようになり，社会性を育む場となった。また学習での関わりをもつことで，上級生は学びのモデルになれるように努力し，下級生はそのような姿にあこがれをもつことができた。

５　今後の課題

様々な人との関わりをもつことで，相手を思いやった行動が増えてきている。小さなトラブルはあるが，今後も自分とは異なる相手の立場や言動を尊重し，心をつないでいける児童を育てていきたい。

【中学校】

（中・高校生用）

秋田わか杉っ子　いじめゼロに向けた五か条

一　私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。

二　私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。

三　私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。

四　私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえのない存在として尊重します。

五　私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。

学　校　名	鹿角市立尾去沢中学校	児童生徒数	６２人	学級数	４

１　活動名　縦割り活動の充実によるいじめ防止 ～自ら考え判断し行動する生徒会を目指して

２　活動の趣旨

本校では数年前から清掃活動や各種学校行事を縦割りにして取り組んでいる。これは生徒数減少に伴う取組であったが，縦割り活動を充実させることにより，学年の枠を超えて互いの理解を深めたり，個性を認め合ったりする場が生まれている。また，学校生活の課題を出し合い，その解決に向けて全校で話し合うことで，充実感や達成感を得ることができている。そのような経験の積み重ねによって絆が強まったり集団への所属感を得たりすることができ，いじめの未然防止につながると考える。

また，集団において間違いや失敗を恐れずに話したり活動したりする雰囲気をつくることで，安心して学校生活を送ることができると考え，生徒会でいじめ防止を呼び掛けてきた。

３　活動の概要

⑴ いじめ防止集会（年２回）

生徒会が中心となって，いじめの定義や防止条例の確認を行っている。いじめ防止への意識を高めるために行っており，「尾中いじめ防止行動宣言３か条」を読み合ったり「こども六法」を使って刑法の視点からいじめについて考えたりした。

⑵ 「『withコロナ』でどのように人と関わるか考えよう集会」

修学旅行前に，身近なところでコロナウイルス感染者が発生した時，どのような行動をとるか，どんな気持ちになるか考えた。縦割りで話合いを行い，どんな時でも思いやりの気持ちをもって接することが大切だということを再確認できた。

⑶ スマイルプロジェクトの実践

年間を通して各委員会が企画・実践する，いじめ防止活動である。縦割りで様々な班を作り，ゲーム等を通して交流を深め，互いの個性を認め合う場を設定している。委員会の特徴を生かし，失敗を恐れず様々な企画を立案し全校で楽しむ場となっている。

【スマイルプロジェクトの様子】

⑷ 「ありがとうの木」

生徒の発案で，生徒玄関前に大きな模造紙で「ありがとうの木」を設置し，花びら型の付箋紙に友人や先生方に対する感謝の気持ちを書いて掲示している。肯定的なコメントが掲示されることにより，互いを認め合い，生徒個々の「誰かのために」という意欲の持続につながった。

⑸ 全校議論

生徒総会や全校集会等，生徒同士で話し合う機会を多く設定した。課題設定から話合いの進行まで生徒が行うことで一体感が生まれた。委員会ごとの話合いにすることで，上級生のリーダー性が発揮されるとともに，先輩を模範にしようとする下級生の姿が見られた。

４　これまでの成果と考えられること

学年を超えて関わる機会を多く設定し，それを継続して行った結果，どのような場面でも自分の意見を全校の前で発表したり，相手に意見を伝えたりすることができるようになった。それは周囲が互いを認め合う温かい雰囲気が醸成されたからである。そのような雰囲気がいじめの未然防止につながり，集団としての一体感を高めていると考える。

５　今後の課題

各行事や集会で，更に早い段階から生徒を参加させ，より一層「自分たちでつくり上げた」と思えるような仕掛けが必要であると考える。

学　校　名	大館市立田代中学校	児童生徒数	１２８人	学級数	６

１　活動名　**自己有用感の醸成を目指した話合い活動や縦割り班活動の実践**

２　活動の趣旨

本校生徒会は，「創誠協心～新たなことに挑戦しともに歩み続ける～」を今年度のテーマとして掲げ，各専門委員会の活動を中心に，様々な学習や学校行事の充実を目指して取り組んでいる。学年間の垣根を超えた縦割り班での活動や全校での話合い活動，地域と積極的に関わるボランティア活動等，生徒が主体性を発揮して取り組むことを重視している。これらの活動を通して生徒同士が互いを認め合ってよりよい人間関係を築いたり，周囲から認められ信頼されたりする体験によって自己有用感を醸成し，いじめの未然防止につなげている。

３　活動の概要

(1)　全校による話合い活動「生徒総会」「未来を語る会」

生徒総会では，生徒会執行部が提案した議題について，全校生徒で話し合う。前期は「理想のあいさつとは」，後期は「よりよい授業・学習にするために」について，生徒会執行部のコーディネートで全校で実践可能な具体策まで絞り込んでいく。自分たちで決めるからこそ，実践の意欲も高まる。

未来を語る会では，各学年がこれまでの総合的な学習の時間の学びを生かして，共通の課題について話し合った。今年度は「将来の夢を実現し，よりよく生きていくために今何をするべきなのだろうか。」について，学年を超えて交流する中で，互いの考えを尊重する態度を育むことができた。

【それぞれの思いを伝え合った未来を語る会】

(2)　縦割り班を生かした活動「体育記録会」「田っ中（たっちゅう）ソーラン演舞」「学校祭」

今年度はコロナ禍の影響もあり，運動会は体育記録会としての開催となったが，その中でもこれまでの伝統を生かした取組を継続することができた。全校が赤組，青組，黄組に分かれての色別対抗では，３年生が組の手本となって応援合戦や長縄縄跳び，行進などをリードし，１・２年生はそれに応えるという一体感が見られた。また，保護者や地域住民から「田っ中ソーラン」として長年親しまれているソーラン演舞では，３年生がリーダー，２年生はサブリーダーを務め，初めて挑戦する１年生に丁寧に教えることができていた。このつながりが，様々な地域行事で披露し，多くの人から喜ばれるソーラン演舞を支えている。

この他，学校祭では，生徒会部門，ステージ部門，展示部門，食堂部門の４部門に分かれて縦割り班活動を行っている。ここでも３年生がそれぞれの部門長を務め，１・２年生と協力して活動を進めている。上級生は頼られることで自分自身のやりがいと責任感を自覚し，下級生は上級生の姿から今後の目標を具体的に捉えることができる場となっている。

(3)　地域への貢献活動「地区ボランティア」

各地区ごとに「中学生として地域のために貢献できることは何か」について考え，地域の行政協力員や民生児童委員の方々にも協力していただきながらボランティア活動に取り組んでいる。２・３年生がリーダーとなって活動内容を決定し，冬休み期間を利用して，一人暮らしのお年寄り宅の除雪作業，公民館や地下道の清掃などに取り組んでいる。地域の方たちから感謝され，認められることは地域への愛着や自己有用感を高めることにつながっている。

４　これまでの成果と考えられること

学年間の垣根を超えた話合い活動や縦割り班活動を通して，３年生は１・２年生の模範としてなるべき姿を示そうとする意欲が高まり，また，１・２年生もそのような姿から自分たちも３年生のような憧れる存在になりたいと思い，意欲が高まるという相乗効果が生まれている。そのため，上下関係を尊重しつつ，互いの立場や気持ちを考えた言動をしようとする姿も多く見られようになっている。様々な活動の中で認められ，信頼され，応援される経験を通して生徒の自己有用感が醸成され，それがいじめを生まない学校づくりにつながっている。

５　今後の課題

今年度の実践を踏まえて，より生徒主体の学習や学校行事にしていくために生徒自身にどのような問題意識をもたせたらよいのか，そのために教師は何をどのように仕掛け，個々の実態を踏まえてどのように支援していくべきなのかを更に検討していきたい。

また，全体がよい方向に向かっている現状であっても，様々な問題に対して何ができるのかと自分自身に問い掛け，自発的に改善していく生徒を育てていかなければとも考えている。

学　校　名	大潟村立大潟中学校	児童生徒数	８６人	学級数	５

１　活動名　　笑顔満開政策！　～いじめのない環境作り～

２　活動の趣旨

１０月に後期生徒会が活動を始めるに当たり，新しい活動の取組の一つとして「いじめのない学校作り」を挙げた。今年は新型コロナウイルス感染症が発生してから，全国的に「コロナいじめ」「誹謗中傷」という言葉が目立つようになり，全国でも昨年度のいじめの認知件数が過去最多となった。今現在はもちろん，今後も，自分だけでなく大切な人が，いじめられる人，またはいじめる人にならないために，全校生徒が心を一つにして活動に取り組み，それが将来，学校，家族，地域を守ることにつながり，気持ちよく生活していくことができるのではないかと考えた。

３　活動の概要

(1)　全校集会「いじめ」について知ることからはじめよう

・あらかじめ「いじめをしたことがある」「いじめを受けたことがある」「いじめを見たことがある」というアンケートをとり，その結果を提示した。「いじめを見たことがある」という生徒が思っていた以上に多かった。

・「いじめ」がどういうものかを知ってもらうため，生徒会執行部が進行役となり，構成的グループエンカウンターを全校集会の場で行った。各クラス４人ずつグループを作り，それぞれが「いじめる人」「仕方なくいじめる人」「いじめられる人」「見ている人」という立場になって真剣に演じ，その都度振り返りを書いた。

【エンカウンターでいじめを疑似体験】

(2)　学級会

・全校集会を踏まえ，いじめを生まないためにはどうすべきかを話し合った。

(3)　代議委員会（執行部，学級委員，委員会委員長）

・各学級で出された案を精選し，どの委員会で担当して進めていくかを話し合った。

(4)　委員会ごとに話し合い，全校へ提案

４　これまでの成果と考えられること

・全校で同じ取組（エンカウンター）をし，振り返りを共有することで，次の学級会での真剣な取組につながった。

・いじめが起きてからどうするかではなく，いじめを生む雰囲気を作らないことの大切さが提案され，そのためにどうしたらよいかという方向で話合いが進められた。

・各学級からたくさんの意見が出され，代議委員会でそれぞれの委員会が役割を分担し，全校で取り組んでいこうという体制が作られた。

例）　学級委員会　友達の良いところや頑張りを共有する時間の確保
　　定期的に親睦を深めるレクリエーションを行う　等

例）　生活委員会　あたたかい言葉掛けの励行

例）　厚生委員会　いじめ防止標語コンテストを実施

・全校で良い雰囲気作りを心掛けていこうとしている。

５　今後の課題

本校は，小学校から単級で，友人関係が固定化しているところもある。今後も全校集会や縦割りの活動を通して友達の新たな良さを発見できる機会を設け，小さな変化にもお互いが気付き，声を掛け合えるような雰囲気作りをしていきたい。各種委員会ごとの取組も全校生徒が楽しんで取り組めるように，変化を付けさせながら継続させていきたい。

学　校　名	にかほ市立象潟中学校	児童生徒数	２４２人	学級数	１１

１　活動名　みんなが安心できる学校を目指して～いじめゼロに向けた五か条～

２　活動の趣旨

象潟中学校の生徒会ではみんなが安心できる学校を目指して取組を行っている。今年度全校生徒で発表した「象中生　いじめゼロに向けた五か条」をもとに，みんなが温かい気持ちで一緒に活動できるような取組がしたいという生徒の声から全校生徒による「ありがとうの木」の活動を行った。

３　活動の概要

(1)　いじめゼロに向けた五か条

生徒会では昨年度から「秋田わか杉っ子　いじめゼロに向けた五か条」をもとに，象中生が自分たちのものとして意識することができるよう，生徒によって自分たちが受け止めやすい言葉に改訂した「象中生　いじめゼロに向けた五か条」を考えた。

そして今年度全校に発表し，玄関や教室に掲示し，全校で共通認識を図った。

(2)　ありがとうの木

全校で共通認識した「象中生　いじめゼロに向けた五か条」を全校生徒に意識して欲しいと考え，生徒会で何か取組ができないか話合いを行った。その中で「いじめ」というキーワードではみんなが積極的に活動できないのではないかという意見が出た。

そこで，第三条の「思いやり」に焦点を当てて活動することにした。小学校での経験を生かして，日々の生活の中で感じている「ありがとう」を伝える「ありがとうの木」を作ることにした。

生徒集会で生徒会長が全校生徒に活動の趣旨を提案した。その後各クラスの委員長がクラスごとに働きかけ，付箋に「ありがとうメッセージ」を記入した。クラスごとにまとめ，全校分を「ありがとうの木」にして玄関に掲示した。たくさんの「ありがとう」を伝えたいと何枚も記入する生徒と，何を伝えたらよいのか悩む生徒がいた。

【玄関に掲示した「ありがとうの木」】

掲示された「ありがとうの木」には多くの生徒が集まり，みんなに寄せられたメッセージを見て会話をするなど温かい雰囲気に包まれていた。また，各クラスの学級通信を通して各家庭にも紹介した。

４　これまでの成果と考えられること

今回の活動を通して，普段「ありがとう」を意識して生活していない生徒が多いことが感じられた。思いやりをもって生活することはもちろん，思いやりを感じることも大切である。今回の取組を通してそのきっかけを作ることができたと考える。また，「象中生　いじめゼロに向けた五か条」をただ提示するだけでなく，第三条に焦点を当てて活動することで，提示された「象中生　いじめゼロに向けた五か条」を自分たちのものとして意識することができたと考える。

５　今後の課題

今後も「象中生　いじめゼロに向けた五か条」の意識を継続させていくことが必要である。そのために，様々な活動と関連させながら取り上げるなど薄れさせない工夫をしていきたい。また，「ありがとうの木」の活動は継続して行うことで，自他を大切にする心が育つと考える。今後も「ありがとうの木」で四季を彩りながら年間通して思いやりを感じることができるよう活動を行っていきたい。さらに，学校祭などの行事と関連させて，家族や地域とつながりながら活動を行うなど，より生徒の心を育む活動を行っていきたい。

学　校　名	仙北市立生保内中学校	生徒数	１１２	学級数	５

１　活動名　「私やります！」自主的な取組を通したいじめ未然防止

２　活動の趣旨

いじめの未然防止として，生徒個人が学校生活に充実感とやりがいをもつことが大切であると考え，生徒会を中心に学校行事や学校生活の中で自己有用感や自尊感情が高まることをねらい，自主的に「私がやります」と言える活動を設定する。

３　活動の概要

専門委員会の常時活動以外で，学校生活で必要と思われる諸活動に参加してくれる生徒を全校に向けて募集し，自ら率先して活動することで，互いに認め合い，共感的な人間関係づくりを図り，いじめ防止に結び付ける。

・活動①「私あいさつします　グリーティングバッジ運動」

生徒会執行部から全校生徒に呼びかけて「あいさつ運動」に取り組んでおり，あいさつを頑張る自己主張として，胸にバッジをつけ，互いにあいさつを交わしている。明るいあいさつを積極的に交わすことにより，生徒間の関係も良くなり，明るい学校づくりにつながり，いじめのない明るい雰囲気になっている。

・活動②「地域を守ろう！交通安全！」

毎年春と秋，２回行っている学校周辺の交差点や横断歩道が多い箇所の街頭指導に，自主的に取り組む生徒を募集するとともに，今年度はＰＴＡ校外指導部の保護者にも参加を募り，教員とともに指導にあたった。地域の方や小学校の後輩との交流も図られ，地域の温かさを感じることで豊かな心を醸成し，思いやりをもって他と接する心を育んでいる。周囲からの賞賛もあり，参加した生徒は充実感を感じている。

【放課後に自ら花壇作業に汗を流す生徒たち】

・活動③「生中を美しくしよう！～前庭池清掃・花壇活動」

前庭にある池の水を抜き，泥を取り除く活動に自主的に参加した生徒は，一年分の泥がなくなり，きれいに整えられた池や噴水になったことを素直に喜んでいた。また，参加できなかった生徒の中にも，池を眺めている生徒が増え，その池を囲んで明るい表情で会話を交わしている姿も見られた。その後，コスモスを植える生徒を募集したところ，多くの生徒が参加し，作業に汗を流すなど，共に働くことで結び付きが強まるとともに，自分の学校をよりよくしたいという気持ちの醸成につながった。

実際に作業や活動に参加した子どもたちを生徒会掲示板を利用して全校に紹介したり，写真とともに校内に掲示したりすることで，互いの活動に注目する機会が増えるとともに，自他のがんばりを認め合う思いを育むことができた。上記の活動を通して，子どもたちの気持ちが豊かになり，自己有用感や自尊感情も高まったと思う。何よりも，学校全体の雰囲気が明るくなったと感じている。こういった学校全体の雰囲気が互いを思いやり，理解し合うことができ，よい人間関係を育てて，いじめの防止につながると考えている。

４　これまでの成果と考えられること

様々な呼びかけに対して，生徒の会話に「いつやる？」「２回目やってもいいですか？」など前向きに頑張ろうとする様子が見られるようになった。実際，街頭指導に何度も立ってくれる生徒もいた。また，各委員会の活動に変化が現れ，例年の常時活動以外に，生徒のアイデアで新しい活動を始める委員会も出てきた。最近では，環境美化委員会が朝の登校時間を早め，落ち葉清掃を行った。本校の敷地は広いのだが，毎朝落ち葉を集めてきれいにすることができた。また，委員会の生徒以外にも協力して参加する生徒も見られた。

このような活動を通して子どもたちが以前より自信に満ち，生き生きと，積極的になったと感じる。本校が掲げている「地域を愛し，毎日行きたくなる学校」に近づいてきていると思う。毎月行っている「生活アンケート」をみても，いじめに類似するような記述は無い。子どもの心が豊かになることでいじめに防止につながると強く感じた。

５　今後の課題

「私やります！」の活動では，教師がアドバイスやアイデアを出すこともあったが，生徒たち自ら様々な企画をして取り組んでいくことで，より学校生活が充実してくると考える。失敗を恐れず，主体的に活動する子どもたちを見守りながら，自己有用感が高まる活動を広げていくことで，生徒同士，生徒と教師の信頼関係も深まり，より強い，いじめの未然防止につながると考えている。

学　校　名	横手市立増田中学校	児童生徒数	１２７人	学級数	６

１　活動名　「ますだ０運動」～いじめをなくすために，よりよく人とかかわるために～

２　活動の趣旨

(1) みんなが暮らしやすくよりよい学校生活を送るために，相手の立場になり，人とのかかわりを大切にして生活しようとする気持ちを醸成する。
(2) 他と接する際のふさわしい言動について，考えや理解を深め，今後の生活に生かそうとする気持ちを高める。
(3) 生徒会主体で活動することを通して，いじめ等の問題を自らの課題としてとらえ，実践できるようにする。

３　活動の概要

「ますだ０運動」とは
まごころと **す**てきな笑顔で **だ**れとでも いじめ**０** をキャッチフレーズとし，小・中が連携しながら，増田地区からいじめをなくすための運動
(1) 横手市いじめ防止等対策事業として，増田中学校区（増田小学校・増田中学校）が連携し，取り組んでいく。
(2) 児童会・生徒会が主体となって，いじめ防止の取組を実践し，児童生徒が自らの課題として行えるようにする。
(3) 活動の実際
① 小・中共通いじめ防止ポスターの作成　10月上旬
② ますだ０運動の紹介（児童会・生徒会）10月中旬
③ いじめ防止ポスターの掲示　10月下旬
④ いじめ撲滅標語の募集　11月上旬
⑤ オリジナルマスク着用（ますだ０マスク）
⑥「ますだ０集会」の実施（小学校5年生・中学校1年生）　11月10日
テーマ「かかわりを大切に，うれしいこと，嫌なことって，何?」
・講話，エンカウンター
講師　南かがやき教室教育相談員　佐藤さゆ里先生
⑦ 標語の掲示　11月下旬

「ますだ０集会」の感想
・今日の集会を受けて「断る苦手さ」で自分も断るのが辛くて心とは違う気持ちで答えてしまっていたので，これからは自分の気持ちを信じていこうと思いました。「断らず」に相づちをうってしまうと自分も悪い人になってしまうので，友達を裏切らないように注意していこうと思いました。いじめなどで苦しんでいる人は多くいると思うので，身近にいる人で，少しでもその子が笑顔になるように話しかけていきたいと思います。
・「ありがとう」，「どうしたの？」という気軽な言葉でも相手のことをうれしい気持ちにできることがよく分かりました。また，相手に使っているあだなでも，相手を傷つけてしまうことが印象に残り，私も気を付けたいと感じました。５年生との交流では中学生としてリードし，笑顔で活動することができました。今回，教えてもらったことをこれからの学校生活に生かしていきたいです。

４　これまでの成果と考えられること

・児童，生徒が自らの課題と捉え，児童会，生徒会が集会等を企画，運営することによって，考えを深め，生活に生かしていこうとする姿勢が多く見られるようになった。
・何気ないしぐさや言動でも，相手の気持ちや立場を考えて，配慮することが必要であることを理解することができた。
・互いに気持ちよく，またうれしい気持ちで過ごすためには，どのように振る舞っていくべきか等についての心情が深まり，今まで以上に望ましい言動が見られるようになった。
・学校生活をよりよくしていくためには，自分たちから行動するということの大切さを理解することができた。

【ますだ０集会　エンカウンター】

５　今後の課題

・講話の内容にあったように，親しい間柄だからこそ，日頃の言動に気を付けるべきことを，機会を捉えて指導し，よりよい学校生活への呼びかけや取組を促しながら，活動を支援していきたい。
・今回の「ますだ０集会」は，新型コロナウイルス感染症対策のために，対象を小学校５年生と中学校１年生に絞って実施したものであったので，全校的な広がりのある運動となるようにしていきたい。

【高等学校】

（中・高校生用）

秋田わか杉っ子　いじめゼロに向けた五か条

一　私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。

二　私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。

三　私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。

四　私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえのない存在として尊重します。

五　私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。

学　校　名	秋田県立男鹿海洋高等学校	児童生徒数	１６８人	学級数	９

１　活動名　みんなが生きる生徒会活動　～一人ひとりが主役！みんなで創る学校行事～

２　活動の趣旨

本校生徒会では，生徒一人一人の「自己有用感」「自己肯定感」の醸成を目指して，各種生徒会活動や学校行事等を企画・運営している。様々な集団活動における他者（仲間）との関わりを通して，他者を認め，自己を理解し，「自己有用感」「自己肯定感」が育まれるように工夫している。このような取組と道徳教育や人権教育がうまく連動することで，いじめの未然防止につながる生徒会活動を一層充実させている。

３　活動の概要（代表的なもの２例）

(1)朝のあいさつ運動

①活動時期…毎月初めの月曜日

②参加生徒…生徒会執行部員

③活動内容…生徒会執行部が中心となり，ＰＴＡ役員・教職員とともに，登校時の生徒への声かけ（あいさつ）を通して，登校する生徒の様子を観察した。

【朝のあいさつ運動風景】

(2)学校祭での啓発活動

①活動時期…令和２年１０月１７日，１８日

②参加生徒…全校生徒

③活動内容…学校祭で「今までにないくらいの団結で」をサブテーマとして，全校生徒が団結して学校祭を企画・運営した。事前・事後のアンケートを実施し，生徒一人一人に自身の変容を実感させた。

【生徒が書いたサブテーマ】

４　これまでの成果と考えられること

生徒会執行部が中心となって上記３に代表されるような活動をすることで，自らを大切にし，他者を認める気運が高まってきたと感じられる。校内に破損箇所が見られるときには風紀委員が，地域住民等から登下校へ苦情が寄せられたときには交通安全委員が，それぞれ全校生徒へ注意を喚起し，声かけをする姿が見られる。「いじめ」に関しても生徒（仲間）同士の声かけや，教職員への情報提供など，未然防止・即時対応の取組が意識できていると思われる。学校祭の事前・事後アンケートでは，学校祭を通して自らが成長できたと考えた生徒は，１６８名中１５８名であった。その他（成長できなかった）の生徒にも「もっと積極的に参加すれば良かった」等の前向きなコメントが見られた。他者（仲間）との関わりから，他者を認め，自己を理解し，様々な集団活動を通して「自己有用感」「自己肯定感」が醸成されてきていると考えられる。

５　今後の課題

本校では，教職員と生徒会・保護者（地域）の連携がうまく機能していると捉えている。新型コロナウイルスの感染拡大防止に係る対応等により，これまで積み重ねてきた連携が途切れることのないよう，ＩＣＴを活用するなどの新たな連携方法も模索していきたいと考えている。

学　校　名	秋田県立西目高等学校	児童生徒数	３７３人	学級数	１２

１　活動名　　西目高校生徒会執行部　「友だちと仲良く学校生活を送るためのアンケート」

２　活動の趣旨

本校生徒会では，いじめ防止の取組として「友だちと仲良く学校生活を送るためのアンケート」を，平成３０年度，３１年度に実施した。アンケートに寄せられた意見を生徒会執行部が集約し，生徒が心がけることとして，学年別に校内各所に掲示した。このアンケートを通して，生徒が友人関係と学校生活を振り返るとともに，現在抱えている問題を乗り越えようとするきっかけとなることを目的に実施している。

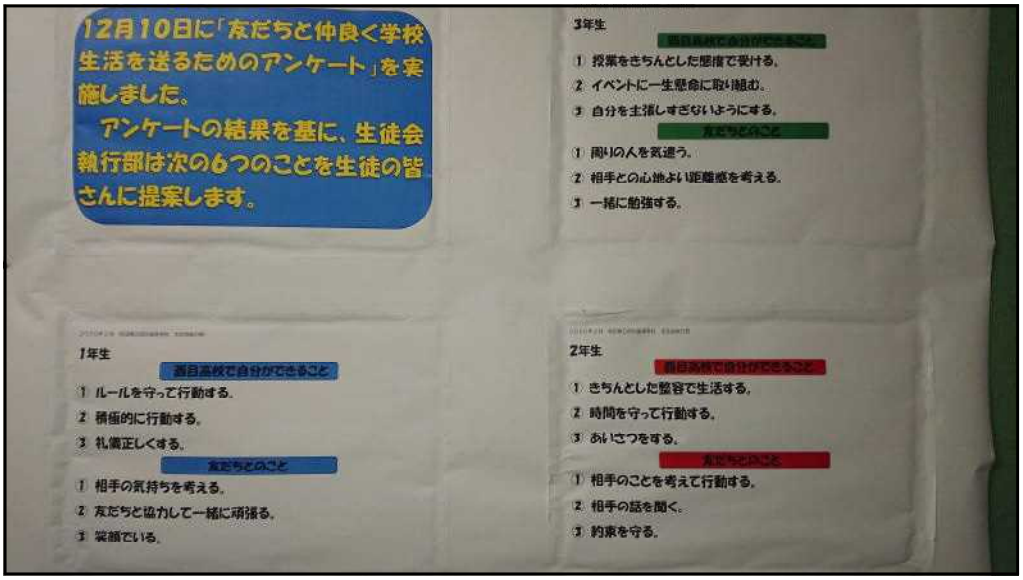
３　活動の概要

(1) アンケートについて

このアンケートは，解決志向アプローチを用いたアンケートである。アンケートの作成には，『実践「教育相談」～個人と集団を伸ばす「最強のクラス作り」』（川島書店，２０１８年）を参考にした。現在の友人関係の満足度を１０点満点で評価させ（スケーリング），現状から１点上げるために，生徒自身に何ができるのかを記述させた。

(2) 実施について

①平成３０年度…およそ半年ごとに１回，計２回実施。
②平成３１年度…およそ半年ごとに１回，計２回実施。
③令和　２　年度…１回実施。名称を「休み時間を楽しく過ごすためのアンケート」とし，内容を一部変更した。休み時間に生徒のやや落ち着きがない状況が見られたため，生徒の実態を把握するために実施した。



【校内に掲示したポスター】

(3) アンケート結果について

平成３１年度における全校生徒の平均値は，友人関係に対する満足度が１０点満点中６．０点（前年度比－０．５点），学校に対する満足度は４．９点（前年度比－０．５点）であった。また，友人関係に対する満足度が低いクラスは，学校に対する満足度が低い傾向にあった。

４　これまでの成果と考えられること

多くの生徒が「相手を思いやる」，「相手の気持ちを考える」，「心地よい距離感を考える」という意見をもっていることが分かった。

５　今後の課題

生徒の発達段階に応じたソーシャル・スキルトレーニングを実施するなど，一層良好な人間関係を築いていくための取組が必要であると考えている。生徒会執行部だけでなく，校内のいじめ防止対策委員会の協力を得て，今後も実効的かつ組織的な取組を続けていきたい。

【特別支援学校】

学　校　名	秋田県立比内支援学校たかのす校	児童生徒数	３９人	学級数	７

１　活動名　　全校での人権集会と中学部・高等部合同の学部集会
（なかよくなろう集会・いじめ撲滅集会）

２　活動の趣旨

「自分や友達には良いところがあることに気付き，自分や他の人を大切にしようとする気持ちをもつ」というねらいのもと，異学年交流をしながら取り組む。児童生徒の実態に応じて，「仲良くするために守るルール」を知ったり，ロールプレイ等を通じて相手の立場になっていじめを考えたりする機会を設定することで，適切な関わり方について学ぶ。

３　活動の概要（第１回　９月１６日　２校時　・　第２回　１月２０日　２校時）

児童生徒の実態を考慮し，話合いなどが難しい児童生徒は「なかよくなろう集会」へ，話合い活動による課題解決がふさわしい児童生徒は「いじめ撲滅集会」への参加とした。

(1)　第１回（全校による人権集会として実施）

①「なかよくなろう集会」

地域の人権擁護委員の方々とパズル合わせやボッチャなどのゲームを通して，挨拶や言葉遣い，友達を応援することなど，仲良くなるために大事なことや順番を守るなどのルールを守って活動した。

②「いじめ撲滅集会」

友達と仲良く，気持ちよく生活するために「言われてうれしい言葉やうれしい行動」「言われて傷ついた言葉や行動」について，付箋紙に書いて発表した。「〇〇の近くに行きたくないと言われた」「独りぼっちにされた」「無視をされた」等，特に傷ついた言葉や行動の中に共感や気付きがあり，言われてうれしい言葉を使おうとする気持ちが高まった。また，たかのす校の「いじめ撲滅五箇条」の確認をした。

(2)　第２回（中高合同学部集会として実施予定）

①「なかよくなろう集会」

異学年の生徒同士でグループを作り，第１回で学んだルールについて確認しながらレクリエーションをする。

②「いじめ撲滅集会」

日常的に考えられるケースについて，ロールプレイで再現し，「いじめであるかどうか」「自分ならどう行動するべきか」について付箋紙法でグループ協議をする。

【友達に言われてうれしい言葉などを付箋紙に書く】

４　これまでの成果と考えられること

「なかよくなろう集会」に参加した児童生徒は，相手と歩調を合わせて一緒に行動したり，順番を守ったり，支援を受け入れたりしながら楽しく活動できた。

「いじめ撲滅集会」で互いに意見を発表し合ったことで，他者理解が深まり，優しい言葉で話す様子が見られた。また，気になることがあったら教師に相談するように伝えたことで，生徒同士の小さなトラブルが減った。

５　今後の課題

児童生徒会の活動として定期的に実施してきたが，たかのす校の「いじめ撲滅五箇条」の周知徹底には至っていない。児童生徒の意見も取り入れながら，児童生徒の実態に応じた内容で活動を継続し，定着を図りたい。

北秋田市立綴子小学校

大潟村立大潟中学校

八峰町立八森小学校

にかほ市立象潟中学校

男鹿市立脇本第一小学校

横手市立増田中学校

大仙市立四ツ屋小学校

県立男鹿海洋高等学校

鹿角市立尾去沢中学校

©2015 秋田県んだッチ

発行：秋田県教育庁義務教育課